

第4次川西市ジェンダー平等推進プラン(案)

修正対比表

	項目	パブリックコメント時 ※ —— :今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 ※ <u> </u> :今回追加となった部分	修正理由																
1	【本編 P.11、12】 第3次プラン の達成状況 No.11、20、 28、33、34、 35、36	<p>No.11 市が国や県が実施しているワーク・ライフ・バランスに係る企業認定制度・表彰制度などをPRした延べ件数</p> <table border="1" data-bbox="380 424 1028 668"> <thead> <tr> <th>現状値 (令和 4(2022)年度)</th> <th>目標値 (平成 34(2022)年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9 件</td> <td>20 件 (平成 30(2018)～ 令和34(2022)年度)</td> </tr> </tbody> </table> <p>No.20 庁内のワーク・ライフ・バランス研修受講者の延べ人数</p> <table border="1" data-bbox="380 852 1028 1096"> <thead> <tr> <th>現状値 (令和 4(2022)年度)</th> <th>目標値 (平成 34(2022)年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>67 人 (平成 30(2018)～ 平成34(2022)年度)</td> <td>200 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)</td> </tr> </tbody> </table> <p>No.28、33、34、35、36も同様の修正</p>	現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)	9 件	20 件 (平成 30(2018)～ 令和 34(2022)年度)	現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)	67 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)	200 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)	<p>No.11 市が国や県が実施<u>し</u>ているワーク・ライフ・バランスに係る企業認定制度・表彰制度などをPRした延べ件数</p> <table border="1" data-bbox="1077 424 1724 668"> <thead> <tr> <th>現状値 (令和 4(2022)年度)</th> <th>目標値 (平成 34(2022)年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9 件 <u>(平成 30(2018)～ 令和 4(2022)年度)</u></td> <td>20 件 (平成 30(2018)～ <u>平成</u> 34(2022)年度)</td> </tr> </tbody> </table> <p>No.20 庁内のワーク・ライフ・バランス研修受講者の延べ人数</p> <table border="1" data-bbox="1077 852 1724 1096"> <thead> <tr> <th>現状値 (令和 4(2022)年度)</th> <th>目標値 (平成 34(2022)年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>67 人 (平成 30(2018)～ <u>令和</u> 4(2022)年度)</td> <td>200 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)</td> </tr> </tbody> </table>	現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)	9 件 <u>(平成 30(2018)～ 令和 4(2022)年度)</u>	20 件 (平成 30(2018)～ <u>平成</u> 34(2022)年度)	現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)	67 人 (平成 30(2018)～ <u>令和</u> 4(2022)年度)	200 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)	<p>ご指摘を踏まえ、修正しました。</p>
現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)																			
9 件	20 件 (平成 30(2018)～ 令和 34(2022)年度)																			
現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)																			
67 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)	200 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)																			
現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)																			
9 件 <u>(平成 30(2018)～ 令和 4(2022)年度)</u>	20 件 (平成 30(2018)～ <u>平成</u> 34(2022)年度)																			
現状値 (令和 4(2022)年度)	目標値 (平成 34(2022)年度)																			
67 人 (平成 30(2018)～ <u>令和</u> 4(2022)年度)	200 人 (平成 30(2018)～ 平成 34(2022)年度)																			

	項目	パブリックコメント時 ※ —— :今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 ※ <u> </u> :今回追加となった部分	修正理由								
2	【本編 P.12】 第3次プラン の達成状況 総括		<p>●各基本目標ごとの評価指標の達成率は、基本目標Ⅰ～Ⅲはそれぞれ4割ですが、基本目標Ⅳ～Ⅴはそれぞれ未達成となっています。男女共同参画についての理解の促進、女性のエンパワーメントの推進、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進については、社会情勢の変化や取組みの成果が現れ始めています。一方、男女が安全で安心して暮らせる環境づくり、配偶者等からのあらゆる暴力(DV)の根絶、男女共同参画施策の推進と進捗管理については、その成果が形になって現れにくい面も多いことから、より一層の取組みが必要な状況です。</p>	ご指摘を踏まえ、文言を追加しました。								
3	【本編 P.34】 評価指標 23	<p>評価指標:川西市の自殺者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36.6 (令和 4(2022)年)</td> <td>25.6 (令和 13(2031)年)</td> </tr> </tbody> </table>	現状	目標	36.6 (令和 4(2022)年)	25.6 (令和 13(2031)年)	<p>評価指標:川西市の<u>自殺死亡率(人口 10 万人当たり)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>23.1</u> (令和 4(2022)年)</td> <td><u>10.0</u> (令和 13(2031)年)</td> </tr> </tbody> </table>	現状	目標	<u>23.1</u> (令和 4(2022)年)	<u>10.0</u> (令和 13(2031)年)	評価指標を国の自殺総合対策大綱とあわせ「自殺死亡率」に変更し、より高い目標値に修正しました。
現状	目標											
36.6 (令和 4(2022)年)	25.6 (令和 13(2031)年)											
現状	目標											
<u>23.1</u> (令和 4(2022)年)	<u>10.0</u> (令和 13(2031)年)											

	項目	パブリックコメント時 ※ —— :今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 ※ <u> </u> :今回追加となった部分	修正理由
4	【本編 P.41】 DVについて	<p><現状と課題></p> <p>●令和4(2022)年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」では、13.4%の女性が、50歳代までは17.2%の女性がDV被害を受けています。～略～</p> <p>●また、DVを受けたことがある女性の67.2%が「相談しなかった」と回答しており、その理由をたずねると、「相談しても無駄だと思ったから」が38.9%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が33.3%となっています。～略～</p>	<p><現状と課題></p> <p>●令和4(2022)年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」では、<u>DVの被害を受けたことがある市民の割合は、8.9%(女性13.4%、男性2.7%)でした。</u>～略～</p> <p>●また、<u>DVの被害を受けたことがある市民の71.1%(女性67.2%、男性100%)</u>が「相談しなかった」と回答しており、その理由をたずねると、「相談しても無駄だと思ったから」が38.9%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が33.3%となっています。～略～</p>	ご指摘を踏まえ、文言を修正しました。
5	【本編 P.55】 LGBTQ の用語説明	<p>●LGBT (P10)、LGBTQ (P10)</p> <p>～(略)～</p> <p>Q「クエスチョニング(自分のセクシュアリティを断定せず、典型的な男女ではないと感じている人(模索中))」の頭文字をとったものです。</p>	<p>●LGBT (P10)、LGBTQ (P10)</p> <p>～(略)～</p> <p>Q「クエスチョニング(自分のセクシュアリティを断定せず、典型的な男女ではないと感じている人(模索中))」<u>「クィア(性的マイノリティの総称)」</u>の頭文字をとったものです。</p>	ご指摘を踏まえ、文言を追加しました。